

1 苗 1 苗命をつなぐ全校生徒 179 名田植え



能代西高校恒例の全校田植えが、6月30日に開催されました。生物資源系列3年の水田・果樹専攻生が播種・育苗した「あきたこまち」の苗を30aの圃場に泥まみれになりながら手植えしました。

開会式では農場長の成田先生が「いただきます。」の言葉には、一苗にも命がありその命を頂く感謝の意味と、今日の環境を作ってくれた方々への感謝の意味がある。1本1本の命を大切に丁寧に植付けてください。」とあいさつしました。能代工業高校との統合を2年後に控えているため、全校田植えは今回も含めて残り2回。圃場には生徒達の笑い声や「冷たいっ～！ヌルヌルする～っ!!」といった悲鳴(!?)が響き渡り終止楽しげな雰囲気の中、田植えが行われました。今後は、水田・果樹の専攻生が管理し、秋の収穫期を待つこととなります。

省力化農業に挑戦 ～水田・果樹専攻生の課題研究スタート～

水田・果樹の専攻生6名が今年度の課題研究テーマに選んだのが「稲作の省力化」。専攻生達は、播種量や植え付け本数の異なる試験区を設けて、生育調査や収量診断をとおして水稻栽培の新しい経営方法を考察することにしました。

取材したこの日は、試乗体験用の新型田植機を使って、生徒自らが運転しながら育苗区の田植えを行いました。密苗は、従来よりも播種量を150gほど多くし育苗を行います。専用の田植機で移植することで、従来は10a当たり25枚ほどの育苗箱が必要でしたが、8枚に抑えることができ苗作りと移植の省力化が期待できる作付け方法です。生徒達は、前日疎植を行った田植機とメーカーが異なったため運転に手こずる場面もありましたが、「異なる田植機を試乗体験できて勉強になった。」「収量や生育にどれくらい違いがあるのかしっかり調査したい」と意気込んでいました。

